五百羅漢石仏について

一般質問

植田　通孝 議員
（自民の風・誠真会）

問　悠久の時の流れに思いを馳せて、心温まる郷愁に耽ることが出来る空間こそ、「ふるさと」と呼ぶに相応しい。数百年もの長きに亘り、変わることのない笑みを湛えてひっそりと佇む五百羅漢の石仏群は、心のふるさとそのものであると思うのであるが、ここ数年訪れる人が少なくなって管理業務に支障を来すようになってきた。フラワーセンターと同様、拝観者が全盛期の3分の1まで落ち込み、保存会では一昨年より観光担当職員を交え話し合いを重ね、集客につながる各種イベントの開催や管理費の削減に努力している。先週から、車いすの高齢者や障がい者の皆さんが安心して拝観できるバリアフリーの園内通路の整備を始めている。手弁当で参加した皆さんは、第一線をリタイアされた方がほとんどであるが、特殊技能集団そのもので、作業もてきぱきと気持ちが良い。五百羅漢のリニューアルのため、次は風化の激しい石仏の修復や伸び放題の庭樹の剪定、公衆便所のバリアフリー化、紫陽花とツツジ園の整備、ミニギャラリーの整備、案内看板のリニューアル等々を企画している。拝観料が潤沢であれば保存会の独自予算で実施できるが、現状の厳しい状況下では、資材費の捻出が大変である。皆さんは、郷土の宝五百羅漢石仏群に観光の拠点として再度「光り」を当てたいと、心底願っておられる。そこで、環境整備の必要性について、お尋ねしたい。

答　石仏の保存はもとより魅力ある観光施設として継続的な環境整備と拝観者増の取組が必要と考えています。拝観者に人気のある北条小学生ガイド隊やボランティアガイドは、誘客効果を生んでいます。保存会の方々も活性化と拝観料の確保に向け集客活動への取組を始められています。市にとって五百羅漢石仏群は市を代表する観光のランドマーク的存在でありますので、引き続き保存会の活動を支援してまいります。

■その他の質問項目

・教育長に関することについて

安全・安心の街づくりについて

一般質問

土本　昌幸 議員
（公明党）

問　災害発生時には、イオンやJAと連携するための協定を結んでいたと思うが、災害に備えた備蓄品の確保について当市の状況はどうか。

答　加西市では、県の発表によると1万2,000人余りの避難者が想定される、山崎断層の地震被害を中心に防災計画を立てています。現実のところ加西市で保管している防災備品は、毛布610枚、簡易トイレ4万枚、ブルーシート750枚、備蓄食料2,200食、ペットボトル1,500本余りとまだまだ不足している状況です。その中で飲料水については、スパーク加西の貯水槽に100㌧、これで1人1日3㍑として想定避難者数の3日分は確保されることとなり、また明神山配水池、寺山配水池分を合わせると、飲料水については防災計画上確保できている状況です。

また、防災計画では各家庭に3日分の食料備蓄をお願いしています。市の方でも2日分の備蓄を計画していますが、想定避難者数の3食2日分、3万6,000食については、保管場所、また経費の関係から市の施設で備蓄することは難しく、JAまた商工会議所をはじめ、市内大型3事業者と協定を交わし、流通備蓄の形で確保する方針をとっています。

問　校区ごとに分割して新しく作成され、大変有益な情報が書かれている防災マップだが、各家庭で常に参照できる形で保管するには大きすぎたりと、しっかりと活用するには改善の余地があるのではないか。

答　防災マップは、作成の過程で各町の状況を聞かせていただくことが、防災への関心を高めるというひとつのねらいでもありましたが、作成したよいものも有効活用されなければ効果が薄れてしまうため、防災訓練などの折りにふれ見返していただけるよう啓発していく予定です。

■その他の質問項目

・市長の政治姿勢について